

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	老若男女が触れ合いながら集える親水公園づくり
事業主体の名称	水辺の楽校応援倶楽部
代表者の名称	長浜 利一
事業主体の所在	〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町大字野木540-2
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> 団体の目的: のぎ水辺の楽校周辺の自然保護と環境整備を推進する。 設立年月日: 平成24年4月14日 構成員等: 地域住民・のぎ学区分館役員・退職教員・地元選出議員・元地主
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町は、ラムサール条約に登録された「渡良瀬遊水池」のほか思川が流れる水自然豊かな町である。そのため、国土交通省の「水辺の学校プロジェクト(※)」の対象となり、散策路等の整備が進められたが、平成21年度の事業仕分けで中断されてしまった。</p> <p>そこで、自分達の力で、きれいな水辺を活かした(ホタルが飛び交うくらい)老若男女が集える場所を作りたいと、地元の有志で「水辺の楽校応援倶楽部」を立ち上げ、水路や池の整備、ホタルの幼虫の放流等に取り組んだところ、最近では、ホタル観賞を目的に周辺住民が訪れるようになってきている。</p> <p>少数ではあるがホタルの自然発生が見られるようになったが、水路や散策路も整備半ばであるなど、今後いかにしてホタルが自然発生する段階まで環境を整備し、町民をはじめ町外、県外からも人が集まる場にするかが課題となっている。</p> <p>※水辺の楽校プロジェクト…「子どもの水辺」における環境学習や自然体験活動を進めるにあたって河川の整備が必要な場合に、自然の状態を極力残しながら瀬や淵、せせらぎ、ワンド等の自然環境を保全・復元するとともに、子どもたちが安全に自然に出会えるよう河岸等へのアクセス性の改善(水辺に近づける河岸整備)、管理用通路の整備等を行うもの。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用し、ホタルが自然発生する環境を整備する。 町民に「自然が豊かで住みやすい街」として認識してもらう。 町外、県外から観光客を呼び込む。
事業概要	<p>整備半ばである水路等の整備やホタルが自生する環境づくりを継続したほか、周辺へのPRを強化した。</p> <p>＜環境整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホタルの飛び交う環境づくり ・ゲンジボタルの幼虫やその餌となるカワニナを継続放流した。 ・専門家や先達の指導を受けながら、ホタル生育環境の整備をすすめた。 ○散策路の整備…子供たちや、訪れた人がメダカやヤゴを観察できる小川沿いに木道の整備を行った。 ○湿原の整備…希少植物を守り、水鳥や猛禽類を呼び込むための湿地の環境整備を行った。 <p>＜学校との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○隣接する野木小学校に教育の場を提供した。(会員が講師を務める) ・5年生…総合的な学習(環境)の講演や現地学習(年4回) ・2年生…生活科(ザリガニ釣り) <p>＜人を呼び込む＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタル祭りの開催 平成30年6月9日(土)、10日(日) 10日は雨天のため中止 観客は約2000人 ・PR活動 ホタル祭りのチラシを約2,000枚 ポスター100枚を作成し町内各所、古河市内、JR野木駅、古河駅に配布するほか野木町HPや広報紙でもPRを行う。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】 人を呼び込むための魅力づくり</p> <p>【数値目標】 野木町を暮らしやすいと感じている町民の割合 現状値: 59.0%(H27調査) → 目標値: 70.0%(H31調査)</p> <p>【KPI】 観光入込客数 現状値: 116,491人(平成26年度) → 目標値: 186,491人(平成31年度)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催	①水路の整備 ②ホタルの幼虫放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小、中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ホタル祭りの開催	①水路の整備 ②ホタルの幼虫・成虫・カワニナの放流 ③散策路の整備 ④湿原の環境整備 ⑤小・中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑥ほたる祭りの開催		①水路の整備 ②ホタルの幼虫・成虫・カワニナ放流 ③湿原の環境整備 ④小・中学生の自然観察などの学習環境の整備 ⑤ほたる祭りの開催
事業費	1,000,024	1,000,005	1,000,027	3,000,056	200,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	0
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	24	5	27	56	200,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	老若男女が触れ合いながら集える親水公園づくり	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	1,000,000	
自主財源	27	
計	1,000,027	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市	町		
報償費	5000	5000	2,500	0	第7回ホタル祭り 出演者1組謝金×5,000円
消耗品費	493800	493800	246,900	0	ホタルの幼虫・成虫・ カワニナ 354,980円他
燃料費	20993	20993	10,497	0	レギュラーガソリン 13,853円他
印刷製本費	89734	89734	44,867	0	第7回ホタル祭りチラシ、 同ポスター88,614円他
光熱水費	7157	7157	3,579	0	ガスボンベ 6,320円他
手数料	1944	1944	972	0	足利銀行振込み手数料 3件
委託料	11760	11760	5,880	0	第7回ホタル祭り仮設トイ レトイレ処理
使用料及び賃借料	68600	68600	34,300	0	第7回ホタル祭り仮設トイ レ48,600円他
原材料費	180442	180415	90,207	27	コンクリート平板、単管ハ イ プ、クランプ136,876円他
備品購入費	120597	120597	60,298	0	エンジン式軽量刈払機 59,400円他
計	1,000,027	1,000,000	500,000	27	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県がまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	新橋区高齢化対策検討と対策の実施事業
事業主体の名称	新橋区高齢化対策検討会
代表者の名称	檜山 金哉
事業主体の所在	〒329-0101 野木町友沼5313-9
事業主体の概要	団体の目的: 高齢化社会に如何に対応していくか、公助を含め自助、共助による明るい地域社会の構築を目指す。 設立年月日: 平成24年10月20日 構成員等: 新橋区役員、区内自治会長、区内民生委員、老人クラブ、一般区民、野木町健康福祉課、政策課、社会福祉協議会
当該事業に係る地域の現状と課題	新橋区は、昭和57年10月に入居が始まり、野木町の1区として現在人口4,300人弱、約1,650戸が立ち並ぶ閑静な住宅地である。 当区は東京に通勤するサラリーマンが主体となっており、団塊の世代がその主力である。 これらの人々が高齢者になる5年後10年後には、高齢化率がそれぞれ37.8%、51.7%と県内でも他に類を見ない高齢者の地域と成る事が想定されている。 高齢化の進行により、独居世帯や高齢者夫婦世帯の増加、自治会等の地域活動の停滞といった従来からの課題に加え、認知症発症者の増加が想定されるため、認知症に対する対策が喫緊の課題である。
事業目的	・高齢者が、住み慣れた地域で、生きがいをもち、安全かつ安心して暮らせる明るい地域を構築する。 ・認知症の発症を予防し、また、仮に認知症を発症した場合でも自助、共助、公助により安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。 ・将来的には、「高齢者になって安心して暮らせる地区」「高齢者は多いが皆元気で、地域の人たちが(外で遊ぶ)子どもの面倒を見てくれる地区」として若い世代に選ばれる地区にする。
事業概要	検討会では、宇都宮大学陣内教授、佐野市NPO 風の詩副理事長永島先生の指導のもとアクションプランを作成し、そのプランに従って地域づくりを実施した。 ○事業検討会 アクションプラン実行の検討会を毎月実施する他、年1回の活動報告会を開き、取組状況の報告とともに宇都宮大学の陣内教授から活動に対するアドバイスをもらった。また年度最後には検討成果の共有のための報告会を行った。 《高齢者が安心して暮らせる明るい地域の構築》 ○高齢者見守りシステムの構築(随時) 1自治会をモデル自治会として、自治会役員・班長を対象に高齢者世帯の災害時におけるサポート体制の必要性、及び日頃からのご近所の見守りの必要性について啓発活動を行い、災害時要援護者マップ(見守りマップ)を作成した。 オレンジカフェ等の認知症・高齢化対策の先進地視察(佐野市のオレンジカフェ「楽風(らふ)カフェ」を実施した。 ○新橋祭の見直し 高齢化で担い手不足に悩む地域行事を、高齢者と地区の小・中学生が関わっていただけるものとし、参加してもらい好評を博した。 会場設置等ケガのリスクが伴うものは専門業者に委託、高齢者と子供の交流を考えみんなが楽しめる催物企画(等)担い手不足を補うために、祭の運営経験者をサポーターとして協力を仰ぎ、多くのサポーターの協力を得た。 ○地域防災・防犯・交通安全活動の推進(各1回) 高齢者を交通事故から守るために、正しい自転車の乗り方や交通規則などについて自転車運転講習会を実施した。(1回) 《認知症対策》 認知症は、家に引きこもりがちで人と関わる機会が少ない人ほど発症しやすいと言われることから、地域の人と触れ合う場(機会)を設ける。 ○老人会やボランティア活動等への参加促進(随時) 地区の老人会と連携し、クラブ活動(ケートボールなど)や美化活動などのボランティア活動に積極的に参加して人と触れ合う機会をつつた。 ○認知症に対する理解促進講座 認知症について正しく理解してもらうことにより認知症の方やその家族が住みやすい地域づくりにつなげるため、区内の老人会と連携して認知症講座を実施した。(全区民対象:1回、老人会対象:2回) (講師:風の詩理事長永島先生、健康福祉課、社会福祉協議会、包括支援センター 等) 《広報活動の推進》 ○高齢化対策検討会の活動だけでなく、新橋区や区内自治会の活動を広く区民に知らせるため、「新橋区ふれあい通信」を2回発行し全区民に配布した。 【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】流入(移住・交流)人口 117,495人(平成26年度) → 187,495人(平成31年度)【H29実績219,174人】 【基本目標4】時代にあった地域づくり 【KPI】まちづくり(協働のまち)の満足度 現状値:0.11点(平成26年調査) → 目標値:0.30点以上(平成31年調査) 【5ヵ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の利用促進 ②災害時要援護者マップの作成 ③高齢者見守りシステム等、交通安全・防犯活動の強化 ④高齢者生活支援事業の周知と促進 ⑤社会参加(ボランティア活動等)への促進、クラブ活動への参加促進 ⑥地域イベント(新橋祭)の見直し ⑦地域防災活動の推進 ⑧認知症の人とその家族が住みやすい地域づくり、区民の認知症に対する理解の促進 ⑨高齢化対策検討会の内容の区民への広報活動	①高齢者の閉じこもりの解消(新橋祭の見直し、ふれあいサロン、自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の活性化) ②安全・安心見守りネットワークの連携した災害時要援護者マップの作成 ③区民を対象とした全戸アンケート調査結果から出された新規課題のアクションプランに基づく検討 ④新橋区広報紙「ふれあい通信」による高齢化対策検討会の状況、現在実施中の施策、及び新橋区の諸活動の広報活動 ⑤認知症への理解を深めるため、区・自治会役員、および区民への研修会を開催 ⑥区民への交通安全講習会、空き巣・窃盗防犯に対する講習会の開催 ⑦区役員・自治会長への防災研修、及び区民を対象とした総合防災講習訓練の実施 ⑧過去年度に実施した各施策の検証と改善の実施	①自由参加型サロン「街かどカフェすまいる」の利用促進と運営の改善 ②区民の互助・共助意識向上の推進と、災害時要援護者支援体制の確立 ③自治会活動のあり方について継続検討 ④区民への安全・防犯意識向上策の推進 ⑤認知症サポーター育成強化と支援体制の確立 ⑥過去年度に実施した各施策の見直しと改善 ⑦区広報紙に加え、社協広報紙への活動状況掲載による情報発信の強化		①あいさつ運動による近所付き合いの復活の取り組み(防犯意識の高い地域づくり) ②認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくり推進 ③買い物支援、軽作業を応援する地域応援隊の編成 ④独居老人が安心して生活できる地域づくり(見守り体制の確立)
事業費	940013	900232	916461	2,756,706	100000
市町支出金(ソフト事業分)	940000	900000	900000	2,740,000	0
うち県交付金	470,000	450,000	450,000	1,370,000	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	13	232	16,461	16,706	100,000

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	seikakukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	新橋区高齢化対策検討と対策の実施事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	900,000	
自主財源	16,461	研修会会費、預金利息、寄付
計	916,461	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町支出額	県交付金		
報償費	76220	76220	38,110	0	研修会講師謝金 ラジオ体操リーダー謝礼品
旅費	0	0	0	0	
消耗品費	24694	24694	12,347	0	事務用品、ラジオ体操用品 等
燃料費	3000	3000	1,500	0	研修会車代
食糧費	34787	18326	9,163	16,461	研修会講師昼食代、飲み物 研修会飲み物代 等
印刷製本費	84132	84132	42,066	0	活動状況広報紙、ちらし 検討会・研修資料 等
通信運搬費	740	740	370	0	郵送費等
手数料	1188	1188	594	0	振込手数料
保険料	700	700	350	0	ボランティア保険料
委託料	500000	500000	250,000	0	新橋祭事前準備作業委託
使用料及び賃借料	41000	41000	20,500	0	大波家(すまいる)使用料 等
備品購入費	150000	150000	75,000	0	新橋祭電線老朽取り換え
計	916,461	900,000	450,000	16,461	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	駅前商店街活性化事業
事業主体の名称	のぎまちづくりネットワーク
代表者の名称	浜田 敏路
事業主体の所在	〒329-0101 栃木県下都賀郡野木町友沼4640-39
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:野木町駅前周辺の活性化を図る。 ・設立年月日:平成21年4月28日 ・構成員等:野木町在住のまちづくりに興味あり、趣旨に賛同した方 15名
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>地方を中心に少子高齢化・人口減少が進行する中、野木町でも、かつて賑わいを見せていた野木町前の商店街が閑散としており、「野木駅前周辺の商店街を元気にしてほしい」との声が上がっていた。そこで、平成21年「のぎまちづくりネットワーク」を立ち上げ、商店街への人の流れをつくるべく、年2回「のぎの楽市『えんにち』」を開催したところ、1000人を超える来場があった。以降、毎年内容を変え開催しており、昨年度開催した「ビールまつり」では2000人を超える人出があるなど、回を追うごとに来場者数が増えてきている。</p> <p>しかし、来場者が増えたと言っても、まだイベント時に町内で盛り上がりつつあるのみであるため、いかにしてイベント以外でも人が行き交う状態をつくり、外からも人を呼び込むかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前通り商店街に町内外から人を呼び込む。(1年に複数回、さらに毎年野木町を訪れてもらう。) ・イベントに地域資源を活用し、若い世代の郷土愛を醸成する。 ・町内外に向けて「きらりと光る」元気なまちをアピールし、移住を促す。 ・町民提案型のプラットフォーム事業として推進するため広く町民に協働のまちづくりを理解していただくきっかけになる。 ・定期的に駅前通り商店街にお客を呼び込みにぎわいができる。 ・町内外に「きらりと光る」元気なまちをアピール出来、経済効果も期待できる。
事業概要	<p>①のぎの楽市「えんにち」を年2回開催 場所:野木駅西口・富士見公園 ・開催内容:平成30年9月1日(土) 1回目「ビールまつり」3,500名参加 平成31年3月10日(日) 2回目「仮装コンテスト(約90名)・手づくりおばけ屋敷(約500名)・フリーマーケット」合計2,700名参加</p> <p>②今回も仮装コンテストに小学生による子供みこし、園児による子供甲冑隊等参加。又、店舗に小学生がお手伝いとして参加。</p> <p>③駅周辺の商店を紹介するためのマップを見直し。今後活用を検討する。</p> <p>④ひまわりまつり開催時に臨時案内所を駅前平成30年7月29日に開催、県内外の来場者をおもてなした。</p> <p>⑤町外からの来場者獲得のためホームページ、フェイスブック、テレビ等情報の発信をした。</p> <p>*協働のまちづくりとして「のぎの楽市」が定着してきた。今後地域のマルシェとして地域と一体になり手づくり感を失わず、来場者のニーズに答え、新企画を加えつつ関係団体に協力を要請するなどして、定着を図っていく。</p> <p>*情報の発信が多く参加者を集めるための決め手となるので検討する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>野木町総合戦略の8プロジェクトで「高齢対策プロジェクト」「水と緑と歴史のまちづくりプロジェクト」等の目標戦略と合致する【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり</p> <p>【KPI】 観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年度) → 目標値:186,491人(平成31年度)【H28実績206,000人】 転入者数 (H26)社会増減数8人の転入超過 → (H27~H31の5年間で)社会増減数180人の転入超過【H29年実績値 41人】 転入1,364 転出1,323</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①楽市の開催(年2回) ②屋外こども劇の検討 ③商店マップの見直し ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)	①楽市の開催(年2回) (ビールまつり、体験広場) ②屋外こども劇の開催 ③商店マップの活用 ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)	①楽市の開催(年2回) ・ビールまつり ・仮装コンテストと体験 ②おばけ屋敷の開催 ③フリーマーケットの開催 ④駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他)		①楽市の開催(年1回) ・ビールまつり ②駅前案内所臨時開設 (ひまわりフェスティバル他) ③商店マップの活用
事業費	1,036,834	1,057,440	1,009,601	3,103,875	500,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	0
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	0
うち県交付金				0	
その他自主財源等	36,834	57,440	9,601	103,875	500,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	駅前商店街活性化事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	1,000,000	
自主財源	9,601	
計	1,009,601	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	96,000	96,000	48,000	0	出演者謝礼金 他
旅費	28,840	28,840	14,420	0	イベント調査
消耗品費	387,378	377,777	188,888	9,601	カンパッチ・印刷インク等
食糧費	58,239	58,239	29,120	0	出演者飲物・打ち合わせ飲物 他
印刷製本費	109,358	109,358	54,679	0	チラシ・ポスター等
通信運搬費	21,426	21,426	10,713	0	切手代
広告費	10,800	10,800	5,400	0	ワッセ掲載料(2回)
保険料	21,000	21,000	10,500	0	ボランティア保険
委託料	257,560	257,560	128,780	0	電気工事(2回)
使用料および賃借料	19,000	19,000	9,500	0	機材借用料
計	1,009,601	1,000,000	500,000	9,601	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町さくらまつり
事業主体の名称	野木町さくらまつり実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町役場産業課商工観光係内」
事業主体の概要	団体の目的:桜が開花する時期に祭りを開催することにより、町民相互の交流とコミュニティの活性化を図る。 また、桜を中心とした町内の各種まつりをPRすることにより、地域の活性化に寄与することを目的とする。 設立年月日:平成27年1月21日 構成員等:町観光協会、町工場協会、商工会、地元区長、野木神社宮司等 計19名
当該事業に係る地域の現状と課題	栃木県内のほとんどの市町で人口減少傾向が続く中、野木町も年々人口が減少している状況にある。これまで、人を呼び込むためのイベントとして、「夏のひまわりフェスティバル」「秋の産業祭」「冬の駅前のイルミネーション」と季節に応じた開催してきたが、春のみ目立ったイベントがなかったことから、平成27年度、それまで春の同時期に行われていた伝統行事と町内に点在する桜の名所の観光を促進するイベントとして「春まつり」を開催した。春まつりの開催前はこの時期に大きな交流人口の増加はなかったが、春まつり初年度である平成27年度は、町内外から2,000人が訪れるなど、好評を博した。 しかし、まだ開催2年目で知名度が高くないことから、今後いかにして「外から人を呼び込むか」「来場者に野木町の魅力を知ってもらい、年間を通して訪問してもらうか」「ゆくゆくは移住定住につなげていくか」が課題となっている。
事業目的	・町外(県外)から野木町を訪れてもらうきっかけをつくる。 ・年間を通して野木町を訪れてもらうきっかけをつくる。 ・将来的に野木町に移住定住してもらうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。
事業概要	【平成30年度】 《野木町を訪れるきっかけ》 第4回のさくらまつりを開催し、今年度は下線部を追加実施し、さらなる集客を図った。 ◎さくらまつりの開催(平成30年4月7日(土)～4月8日(日)) ・さくらまつり(平成30年4月7日(土)、野木町総合運動公園) 町内外の各種団体によるステージイベント、ふれあい模擬店、打上花火、熱気球係留飛行体験、よしず作り体験 チェーンソーアート、ふわふわ遊具 家族連れを誘客を目的として、子供向けのイベントを実施した。 ・ささら獅子舞(平成30年4月7日(土)・8日(日)、野木町大字野渡 熊野神社)…野渡地区住民による獅子舞の演舞、山車巡り ・春神楽(平成30年4月8日(日)、野木神社)…太々神楽の披露 ○集客 広報紙や町HPへの掲載。チラシ(11,000枚)を新聞折込、ポスター(150枚)を町内企業等に設置した。 《野木町の魅力を知ってもらう》 来場者に対するPRとして、観光情報誌「るるぶ」を配布し、野木町の魅力をアピールした。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年度) → 目標値:186,491人(平成31年度)【H29実績219,174人】 【基本目標4】時代にあった地域づくり 【数値目標】野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査)→目標値:90.0%(平成31年調査)【5か年調査のため、平成28年度実績の記載無し】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①さくら祭り ②ささら獅子舞 ③春神楽 ④次回春まつり準備	①さくら祭り ②ささら獅子舞 ③春神楽 ④次回春まつり準備	①さくらまつり ②ささら獅子舞 ③春神楽		①ささら獅子舞 ②春神楽
事業費	1,894,208	2,419,896	1,303,360	5,617,464	500,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,500,000	1,000,000	1,000,000	3,500,000	0
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	394,208	1,419,896	303,360	2,117,464	500,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyouu@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	野木町さくらまつり	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	1,000,000	
協賛金	515,000	企業・団体等からの協賛金(84社・団体等)
雑収入	24,405	ふわふわ遊具利用料、利息
計	1,539,405	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	0	0	0	0	
消耗品費	21,384	21,384	10,692	0	のぼり旗用ボール
印刷製本費	106,920	106,920	53,460	0	チラシ及びポスター印刷 チラシ11,000枚 ポスター150枚
手数料	78,516	71,516	35,758	7,000	振込手数料 2,916円 クリーニング 68,600円 仮設トイレ汲取り料7,000円
保険料	12,000	12,000	6,000	0	来場者保険 12,000円
委託料	1,050,520	788,180	394,090	262,340	会場警備97,200円 提灯設営業務285,120円 ステージ音響業務140,400円 仮設トイレ設置192,240円 熱気球係留飛行150,000円 ふわふわ遊具89,100円 打上花火26,460円 フェンソーアート70,000円
使用料及び賃借料	0	0	0	0	
備品購入費	0	0	0	0	
食糧費	34,020	0	0	34,020	スタッフ弁当
予備費	0	0	0	0	
次年度繰越金	236,045	0	0	236,045	
計	1,539,405	1,000,000	500,000	539,405	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町ふれあい夏祭り
事業主体の名称	野木町ふれあい夏祭り実行委員会
代表者の名称	実行委員長 古澤 清一郎
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町教育委員会事務局生涯学習課内」
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:郷土芸能の保存及び町民同士の親睦を深める。 ・設立年月日:平成22年7月16日 ・構成員等:野木町おはやし保存会連絡会、野木町子ども会連合会、野木町女性団体連絡協議会、野木町レククラブ、野木町文化協会民謡舞踊部、野木町民の歌保存会、野木町生涯学習ボランティア連絡会、よさこい野木ひまわり、市川善英由会、野木中学校吹奏楽部、野木町スポーツ推進委員会、野木町ボランティア支援センター「きりり館」利用者協議会ほか団体多数
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町では、かつて町内の各地区に「おはやしの会」があり、地域行事等でおはやしを披露することが盛んに行われていたが、平成以降、会員の高齢化に伴い、活動が縮小もしくは停止している状況となっていました。また、野木町民の歌として「野木町音頭」があるが、町民への認知度は高いとは言えない状況にあった。</p> <p>そこで、平成10年、伝統文化の継承を目的として「おはやしの教室」を始め、さらに、平成22年からはおはやしや野木町音頭を再評価し定着させようという動きから、野木町ふれあい夏祭りを開催してきた。当初は、おはやし教室に参加した子どもたちの発表や、大人と子どもが日光和楽踊り・野木町音頭と一緒に踊るなどしていたが、現在では参加団体も増え、よさこい、フラダンス、三味線、中学生の吹奏楽や模擬店数など、第1回の倍以上の店になった。</p> <p>しかし、少子高齢化という根本的な問題が解決していないことから、今後いかにして外から人を呼び込み伝統行事を継続していくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・町の伝統文化・芸能を若い世代に継承していく。 ・野木町を訪れるきっかけをつくる。 ・将来的に野木町に移住定住してもらうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。 ・子どもから大人(高齢者)までボランティアが盛んな町、さらには「生涯活躍のまち」として町外にアピールする。
事業概要	<p>【平成30年度】 《野木町を訪れるきっかけ》 ○ふれあい夏祭りの開催(平成30年8月25日(土)) 来場者約3500人 ・太鼓(おはやし)教室受講生の発表・・・町内の中学生が練習の成果を披露 ・おはやしの模範演奏・・・おはやし保存会員による模範演奏 ・野木町音頭、日光和楽踊り・・・町民の歌である野木町音頭に合わせた踊りや日光和楽踊りの披露(誰でも参加可) ・子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー)・・・来場した子どもに楽しんでもらうため、スタンプラリーや各種ミニゲームを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イブニングコンサート・・・野木中学校吹奏楽部の学生によるコンサート ・食のコーナー・・・各種模擬店の出店 ・体験コーナー・・・子ども活動の体験ができるコーナー ・うちわ配布・・・夏祭りうちわのプレゼント <p>○おはやし教室の開催(年3回) 野木町おはやし保存会の方を講師として呼び、中学生を対象におはやし教室を開催した。</p> <p>○集客 広報紙や町HPのほか、観光協会HPで周知した。 また、チラシ・ポスターを町内各所のほか、古河市役所、結城市役所に設置した。</p> <p>○来場者アンケートの実施 改善点、来場理由(○を見て)等を記載してもらい、次年度以降の内容検討につなげる。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】 観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年調査) → 目標値:現状より70,000人の増加(平成31年度)【H29実績219,174人】</p> <p>【基本目標4】時代にあった地域づくり 【数値目標】 野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査) → 目標値:90.0%(平成31年調査)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①太鼓(おはやし)教室受講生の発表 ②おはやしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験、うちわ作り等) ⑧うちわ配布	①太鼓(おはやし)教室受講生の発表 ②おはやしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験、うちわ作り等) ⑧うちわ配布 ⑨来場者アンケート実施	①太鼓(おはやし)教室受講生の発表 ②おはやしの模範演奏 ③野木町音頭、日光和楽踊り ④子ども広場(レクゲーム、遊びのコーナー) ⑤イブニングコンサート ⑥食のコーナー(模擬店等) ⑦体験コーナー(よさこい体験等) ⑧うちわ配布 ⑨来場者アンケート実施		
事業費	615,025	615,100	615,000	1,845,125	615,000
市町支出金(ソフト事業分)	615,000	615,000	615,000	1,845,000	615,000
うち県交付金	307,500	307,500	307,500	922,500	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	25	100	0	125	0

市町担当情報

担当課(クラブ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
連絡先 FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	野木町ふれあい夏祭り	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	615,000	
計	615,000	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	322,074	322,074	161,037	0	太鼓(おはやし)教室講師謝金・子ども広場参加景品 等
消耗品費	99,726	99,726	49,863	0	キャンドル・タープパーツ・紙代 等
手数料	54,000	54,000	27,000	0	クリーニング代
保険料	15,000	15,000	7,500	0	参加者保険料
委託料	124,200	124,200	62,100	0	夜間照明設営業務委託 等
				0	
				0	
				0	
				0	
計	615,000	615,000	307,500	0	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町駅伝大会
事業主体の名称	野木町駅伝大会実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町教育委員会事務局生涯学習課内」
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:生涯スポーツの普及と振興を図る ・設立年月日:平成28年7月中(予定) ・構成員等:野木町体育協会23加盟団体、スポーツ関係団体、職員
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>野木町は、「1人1スポーツ」というスローガンのもと、町体育協会加盟の23団体、元気の出るスポーツクラブのぎ、町体育施設、学校体育施設の定期利用団体等を中心に、年間延べ241,000人が何らかのスポーツ活動をしているなど、スポーツが盛んな町である。さらなるスポーツ振興のため、町では昭和46年から、子どもから大人までがタスキをつなぐ駅伝大会を開催し、日頃の練習の成果を発揮する場を設けてきた。</p> <p>しかし、野木町でも少子高齢化・人口減少が進み、子どもの部を中心に参加者の減少が懸念されているほか、近年では、ランニング=つらい=やらない子どもが増え、子どもの体力低下も懸念されている上、スポーツが盛んな町とはいえ、中高年も加齢とともに日常的な運動から離れつつある。そのため、いかにして参加者の減少を食い止めるとともに、子どもから大人まで生涯スポーツの普及を図っていくかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの1つとしてランニングを推進する。 ・子どもから大人まで、日常的にランニングを行う町にする。 ・ランニングの指導体制をつくる。 ・子どもの教育にいい町、子どもから大人まで健康で生き生きしている町として、移住定住先に選ばれる町になる。
事業概要	<p>○第47回野木町駅伝大会(平成31年1月20日(日)) 小学生から大人まで町内東側を一蹴するコース 93チーム551人参加 内容:16.4km(7区間) 中学生男子(13チーム)、一般男子(26チーム)、壮年男子(4チーム) 11.4km(5区間) 小学生男女(23チーム)、中学生女子(20チーム)、一般女子(7チーム)</p> <p>○第11回栃木県小学生駅伝競走大会(平成31年1月27日(日)) ○小学生走り方教室の実施 内容 関係団体の協力(ボランティアに講師派遣)を得て、「走ることの楽しさ」を伝え、日頃から走る習慣づけ、体力づくりを行っている。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【数値目標】 野木町を暮らしやすいと感じている町民の割合 現状値:59.0%(平成27年調査) → 目標値:70.0%(平成31年調査) 【5ヵ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】 【KPI】 まちづくり(教育のまち)の満足度 現状値:0.29点(平成26年調査) → 目標値:0.45点以上(平成31年調査)【5ヵ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	野木町駅伝大会	野木町駅伝大会	野木町駅伝大会	/	野木町駅伝大会
事業費	990,000	1,015,210	1,109,009	3,114,219	1,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	680,000	680,000	680,000	2,040,000	680,000
うち県交付金	340,000	340,000	340,000	1,020,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	310,000	335,210	429,009	1,074,219	320,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課	
担当者名	川野 千春	
連絡先	電話	0280-57-4132
	FAX	0280-57-3945
	E-mail	seikatukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	野木町駅伝大会	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	680,000	
自主財源	120,000	町体育協会より大会運営費補助ほか
参加料	309,000	大会参加料
繰越金	9	前年度繰越金
計	1,109,009	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	407,964	161,920	80,960	246,044	表彰盾、参加賞、抽選会賞品、交通整理謝金等
消耗品費	197,810	100,000	50,000	97,810	ゼッケン代、大会予告看板、薬品代
食糧費	92,340	30,000	15,000	62,340	役員お茶・弁当代
保険料	35,000	25,000	12,500	10,000	保険代
手数料	864	0	0	864	振込手数料
委託料	163,080	163,080	81,540	0	交通警備代、大会予告花火代
使用料及び賃借料	210,924	200,000	100,000	10,924	選手輸送バス代
次年度繰越金	1,027	0	0	1,027	
				0	
				0	
				0	
計	1,109,009	680,000	340,000	429,009	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県がまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	ひまわりフェスティバル
事業主体の名称	野木町ひまわりフェスティバル実行委員会
代表者の名称	委員長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町役場産業課観光係内」
事業主体の概要	団体の目的: 町の花でもある「ひまわり」を活用したイベントを地元町民と連携し実施することで、野木町のPR及び地域の活性化に寄与することを目的とする。 設立年月日: 平成30年4月1日 構成員等: 町観光協会、町工場協会、商工会、地元区長、花咲かせ隊 等 計25名
当該事業に係る地域の現状と課題	町の花でもある「ひまわり」を活用して野木町のPRイベントとして、「ひまわりフェスティバル」を平成30年度より開催している。平成30年度で第27回目となるイベントで、町内外にも「野木町といえばひまわり」というイメージが定着しつつあり、平成29年度は約7万人の来場者があった。 会場に栽培するひまわりは、地元農家が組織する「ひまわり協議会」がひまわり栽培を担っており、夏の風物詩として開催されている事業に対する地元住民の愛着も芽生えている。 しかし、イベント内容が固定化されているため内容の見直しや改善が求められており、リピーター獲得のためにも新たな内容を盛り込む必要がある。
事業目的	・町外(県外)から野木町を訪れてもらうきっかけをつくる。 ・将来的に野木町に移住定住してもらうきっかけとなるよう、来場者に町の魅力を知ってもらう。
事業概要	野木町の夏の一大イベントとして定着しつつある「ひまわりフェスティバル」は、開催にあたり町商工会や町観光協会をはじめとする様々なまちづくり団体が協働して準備をおこなうなど、全長を挙げたイベントである。例年、町内外から7万人の人手があり、本町の地域活性化はもとより、定住促進に大いに寄与していた。 今後、新たに町民となった方々にも、イベントの担い手として気軽に参加していただけるよう、毎年内容を検討するとともに、イベントを通じて、本町の魅力を広くPRすることにより、町外からの移住を促進していく。 【平成30年度】 1 開催日 平成30年7月27日(金)から29日(日) ※28日(土)は、台風の影響により終日中止。 2 会場 野木第二中学校 3 事業内容 ・7月27日(金): オープニングセレモニー、ひまわりサミットPR、鈴木杏奈ミニライブ、出演希望7団体によるステージショー等 ・7月29日(日): あべ静江歌謡ショー、打ち上げ花火、切り花プレゼント、出演希望6団体によるステージショー 等 ・共通: ひまわり大迷路、ふれあい模擬店、トラクター遊覧 等 4 実行委員会の開催 計5回開催 5 ポスター、パンフレット、うちわ等の作成・配布 ・ポスター 150枚(配布先: 商工会会員、協賛企業等) ・パンフレット 3万枚(町内各戸、来場者等) ・うちわ 2万枚 6 ひまわりフェスティバルPR 7月13日(金)東京駅丸の内中央口にてPR 【平成31・32年度】 平成30年度に実施した好評を博したひまわり大迷路や打ち上げ花火等は継続して実施するとともに、その他事業については、今回の反省点を踏まえて、事業内容を再検討し、効果的な事業を実施する。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標2】 人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】 観光入込客数 現状値: 116,491人(平成26年度) → 目標値: 186,491人(平成31年度)【H28実績206,000人】 【基本目標4】 時代にあった地域づくり 【数値目標】 野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値: 80.7%(平成26年調査) → 目標値: 90.0%(平成31年調査)【5年調査のため、平成28年度実績の記載無し】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成・配布 ③フェスティバルの開催	①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成 ③フェスティバルの開催	①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成 ③フェスティバルの開催		①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成 ③フェスティバルの開催
事業費	17,396,867	16,700,000	16,700,000	50,796,867	16,700,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,000,000	2,000,000	2,000,000	6,000,000	2,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	15,396,867	14,700,000	14,700,000	44,796,867	14,700,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
連絡先 FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	ひまわりフェスティバル	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	2,000,000	
協賛金	1,795,000	企業等からの協賛金 140社・団体
出店料	322,500	ふれあい模擬店出店料
雑収入	1,267,080	利息、ひまわり大迷路入場料、ひまわりトレイン乗車料、メッセージ花火 等
繰越金	312,287	前年度繰越金
自主財源	11,700,000	
計	17,396,867	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	1,000,000	0	0	1,000,000	歌謡ショー出演者等への謝金
消耗品費	515,247	0	0	515,247	ガムテープ、石灰、スタッフTシャツ・帽子 等
食料費	655,182	0	0	655,182	スタッフ弁当及び飲料代 等
印刷製本費	659,772	0	0	659,772	ポスター 150枚 チラシ 30,000枚 うちわ 20,000本
光熱水費	1,447	0	0	1,447	水道使用料
広告費	54,000	0	0	54,000	ハローダイヤル使用料
手数料	113,866	0	0	113,866	煙火消費審査料 7,900円 クリーニング代 19,800円 汲み取り料 43,290円 ゴミ処理料 29,376円 振込手数料 13,500円
保険料	49,020	0	0	49,020	来場者及びスタッフ保険料
委託料	12,231,240	2,000,000	1,000,000	10,231,240	会場設営業務 4,147,200円 会場警備 529,200円 会場整地 1,004,400円 電気仮設 824,040円 仮設給排水 426,600円 打上花火 1,192,000円 ヒーローショー 600,000円 ひまわり作付け管理 3,100,000円 栗畑管理 307,800円 会場耕耘費 100,000円
使用料及び賃借料	1,357,787	0	0	1,357,787	会場賃借料 1,342,317円 野木会館使用料 10,000円 高速代 5,470円
予備費	0	0	0	0	
次年度繰越金	759,306	0	0	759,306	
計	17,396,867	2,000,000	1,000,000	15,396,867	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町魅力ある観光地づくり事業
事業主体の名称	野木町観光協会
代表者の名称	会長 小島 三利
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町役場産業課観光係内」
事業主体の概要	団体の目的:野木町における観光事業の振興を図り、地域住民の福祉向上と産業・文化の発展に寄与することを目的とする。 設立年月日:平成7年3月16日 構成員等:町内事業所、各種団体 等 計111名
当該事業に係る地域の現状と課題	野木町は、国指定重要文化財「野木町煉瓦窯」の歴史やラムサール条約登録湿地である「渡良瀬遊水地」等の豊かな自然があり、栃木県の南の玄関口として首都圏からの誘客を図っている。 しかし、地域活性化にその強みを活かしていない状況であり、結果として平成29年の観光客入込数は219,174人で栃木県内25市町中24位となっている。平成27年の国勢調査の結果でも、平成22年人口は25,720人であったが、平成27年人口は25,292人となっており、428人減少している状況である。この結果から、観光客入込数の少なさから町の知名度も低く、移住希望者から選択されにくく、人口も減少していることが読み取れる。 野木町観光協会では、野木町における観光事業の振興を図り、地域住民の福祉向上と産業・文化の発展に寄与することを目的として、イルミネーション事業等の各種観光振興事業を行ってきた。 平成30年度についても、イルミネーション事業をはじめとした自主事業を継続して実施するほか、栃木県アンテナショップである「とちまるショップ」での観光PRのほか、各種イベントに積極的に参加することにより、本町の観光振興を図る。また、JRグループ6社が本年4月1日から6月30日の期間において実施する、国内最大級の大規模観光企画「本物の出会い栃木 デスティネーションキャンペーン」を契機とした観光誘客の促進を図るため、各種団体との連携やのぎ観光コンシェルジュの体制強化等による「おもてなし」を推進する。
事業目的	・野木町の魅力を発掘し、イルミネーション等の事業を展開することで誘客を図る。 ・観光コンシェルジュを育成し、観光客に対するおもてなし強化を図る。
事業概要	【平成30年度】 1 普及宣伝事業 ① ホームページ及びSNS等を活用し、効果的なPRを実施した。 ② 観光PRイベントへの出店 栃木県アンテナショップ:4月22日、JR東京駅内:7月13日、ゆるきやらサミット:11月24日・25日 ほか ③ 下野新聞『ふるさと通信』やNHK定点カメラ設置に係る環境整備等を行い、野木町の宣伝活動を行った。 2 組織強化事業 観光コンシェルジュを対象にした研修(全4回)を実施したほか、新たな観光コンシェルジュを養成するための講座(全4回)を開講し、おもてなし人材の育成、強化を図った。 3 観光振興事業 ① 「招福のまち」野木スタンプラリー 【実施期間】平成30年4月1日(日)～同年8月31日(金) 【内 容】「本物の出会い栃木 デスティネーションキャンペーン」を契機とした観光誘客の促進を図るため、町内に隠れた幸せ・ハートを探せ!をテーマとしたスタンプラリーを実施し、応募者の中から88名(当選者)に景品を送付した。 ② TOWN-NOGIイルミネーション2018 【実施期間】平成30年11月22日(金)～平成31年2月17日(日) 【内 容】エンジェルやネットライト、接触不良の部材等を購入し、駅東西ロータリーの更なる賑やかさを図った。 ③ のぎ観光コンシェルジュと一緒に野木めぐり 【実施日】9月27日(木) 【内 容】のぎ観光コンシェルジュと一緒に野木町の各名所を回るツアーを実施した。 ④ キャラクターグッズの作成等 ボランティアスタッフ用ののぎのんTシャツ・キャップ【Tシャツ:370枚、キャップ:140個】のほか、ふくろうを題材にした町観光案内付きのふくろうみくじ【1,600個】を制作した。 【平成31・32年度】 平成30年度に実施した各事業を継続して実施する。 【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年度) → 目標値:186,491人(平成31年度)【H28実績206,000人】 【基本目標4】時代にあった地域づくり 【数値目標】野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査)→目標値:90.0%(平成31年調査)【5ヵ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①普及宣伝事業 ②組織強化事業 ③観光振興事業	①普及宣伝事業 ②組織強化事業 ③観光振興事業	①普及宣伝事業 ②組織強化事業 ③観光振興事業		①普及宣伝事業 ②組織強化事業 ③観光振興事業
事業費	1,812,252	2,529,000	2,529,000	6,870,252	2,529,000
市町支出金 (ソフト事業分)	820,000	1,000,000	1,000,000	2,820,000	0
うち県交付金	410,000	500,000	500,000	1,410,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	0
うち県交付金				0	
その他自主財源等	992,252	1,529,000	1,529,000	4,050,252	2,529,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyou@town.nogi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	野木町魅力ある観光地づくり事業	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	820,000	
会費	365,000	協会会員の会費
売上金	627,252	グッズの売上金
計	1,812,252	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	57,876	0	0	57,876	スタンプラリー景品代 48,276円 等
旅費	27,000	0	0	27,000	イベント参加交通費
消耗品費	60,735	60,000	30,000	735	ふくろう張子絵付体験グッズ 8,480円 ふくろうみくじ作成台紙 3,430円 ビニール袋代 3,456円 等
食糧費	191,603	0	0	191,603	ボランティア等昼食代 視察研修昼食代 等
光熱水費	29,713	0	0	29,713	駅前イルミ電気使用料
通信運搬費	31,690	0	0	31,690	スタンプラリー景品発送代 16,830円 等
手数料	6,210	0	0	6,210	口座引き落とし手数料 3,402円 振込手数料 2,808円
広告費	32,400	30,000	15,000	2,400	下野新聞広告
保険料	7,100	0	0	7,100	コンシェルジュ研修・サイクリングツアー等
委託料	1,031,540	730,000	365,000	301,540	■イルミ設置電気工事 329,940円 ■定点カメラ設置電気工事 59,400円 ■グッズ作成 ・のぎのんTシャツ・キャップ 329,000円 ・ふくろう張子 313,200円
使用料及び賃借料	1,600	0	0	1,600	研修駐車場代
備品購入費	314,785	0	0	314,785	PC購入 108,864円 イルミネーションオブジェ 111,024円 等
負担金	20,000	0	0	20,000	ゆるきやらサミット参加費
計	1,812,252	820,000	410,000	992,252	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	野木町
事業名	野木町産業祭
事業主体の名称	野木町産業祭実行委員会
代表者の名称	会長 真瀬 宏子
事業主体の所在	〒329-0195 栃木県下都賀郡野木町大字丸林571「野木町役場産業課観光係内」
事業主体の概要	団体の目的:町産業を一堂に集め、地域住民への紹介を通して小さくともキラリと光る町づくり及び農業・工業・商業調和のとれた発展に寄与することを目的にする。 設立年月日:平成53年4月1日 構成員等:町観光協会、町工場協会、商工会、農業協同組合 等 計22名
当該事業に係る地域の現状と課題	町内の農業・工業・商業の発展のために昭和53年より開催している野木町産業祭は、今年度で41回を迎え本町の秋の風物詩をなっており、平成29年度は5千人の来場者があった。町民も町内の企業や農産物が一堂に会する機会を心待ちにしており、地産地消に貢献している。 農産物共進会では、県知事賞及び県農務部長賞等の賞を設けており生産者の出品意欲の向上に寄与しているが、生産者の高齢化により、出品数も年々減少している。 町内産業が一堂に会する機会として定着しているが、イベント内容が固定化されているため内容の見直しや改善が求められており、リピーター獲得のためにも新たな内容を盛り込む必要がある。
事業目的	・町内の商業、農業、工業を紹介することにより、地元産業への理解を深めるきっかけをつくる。 ・町民参加型のイベント等を開催することにより、町産業界と町民が一体となって町内の持続的な発展、活性化に向けた機運の醸成を図る。
事業概要	「平成30年度」野木町産業祭の開催趣旨に基づき、農・商・工分野の各団体が丸となり、農業部門では、「農産物共進会」を、商業、工業部門では模擬店等の各種催事を実施した。 事業内容 ①実行委員会の開催 実行委員を招集し、事業内容、収支予算等を検討した。 ②チラシ等の作成・配布 チラシ 10,000枚(町内各戸、商工会会員、協賛企業等、来場者等) ③産業祭の開催 各部会が中心となって、各種イベントを開催した。 1)農業の部 農産物共進会及び即売会(町内農家による農産物の品評及び農産物の即売) ふるさと鍋コーナー(地元農産物を使用した鍋の販売)等 2)商業の部 日用品等即売会(商工会会員店舗による即売会) ふれあい模擬店(町内店舗及び各種団体による模擬店)等 3)工業の部 工業製品等展示即売会(町内工場による製品展示及び賞品販売) 4)プレゼントコーナー 新米・堆肥のプレゼント(町内産農産物の無料配布) 苗木配布及び緑の募金・山の日のPR活動(緑化推進事業による苗木の配布)等
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標2】人を呼び込むための魅力づくり 【KPI】観光入込客数 現状値:116,491人(平成26年度) → 目標値:186,491人(平成31年度)【H29実績219,174人】 【基本目標4】時代にあった地域づくり 【数値目標】野木町に住み続けたい、住み続けると思う人の割合 現状値:80.7%(平成26年調査)→目標値:90.0%(平成31年調査)【5ヵ年調査のため、平成28年度実績の記載無し】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①実行委員会の開催 ②チラシの作成・配布 ③産業祭の開催	①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成・配布 ③産業祭の開催	①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成・配布 ③産業祭の開催		①実行委員会の開催 ②ポスター、パンフレット等の作成・配布 ③産業祭の開催
事業費	2,462,555	2,529,000	2,529,000	7,520,555	2,529,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	0
うち県交付金	500,000	500,000	500,000	1,500,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	1,462,555	1,529,000	1,529,000	4,520,555	2,529,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	町民生活部 生活環境課
担当者名	川野 千春
電話	0280-57-4132
FAX	0280-57-3945
E-mail	seikatukankyou@town.nogilg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	野木町	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	野木町産業祭	
対象年度	30	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
野木町支出金	1,000,000	
協賛金	530,000	企業等からの協賛金 10,000円×40社
雑収入	53,555	ふるさと鍋売上金、預金利息
自主財源	879,000	
計	2,462,555	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町交付金	県交付金		
報償費	18,000	18,000	9,000	0	共進会審査委員粗品代等 10,000円 来賓記念品代 8,000円
消耗品費	6,195	6,000	3,000	195	ゴミ袋、ロープ、布テープ、ホ ワイトマーカー 等
食料費	129,608	0	0	129,608	スタッフ弁当、飲料代
印刷製本費	81,000	80,000	40,000	1,000	チラシ 10,000枚
光熱水費			0	0	
広告費			0	0	
手数料費	19,056	19,000	9,500	56	振込手数料 3,456円 クリーニング15,600円
保険料	12,000	12,000	6,000	0	来場者及びスタッフ保険料
委託料	1,847,109	635,000	317,500	1,212,109	会場設営 1,084,587円 会場警備 127,008円 各イベントコーナー 635,514 円
使用料及び賃借料	233,320	230,000	115,000	3,320	エニスホール会場使用料
次年度繰越金	116,267	0	0	116,267	
計	2,462,555	1,000,000	500,000	1,462,555	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合